第 19 章
指定文化財

（1）国指定文化財

神角寺本堂（重要文化財）

朝地町鳥田（鳥屋）　昭和25年8月29日指定

神角寺は、「西の高野」とも称される古刹で、大規模な寺院であったと伝えられます。兵火により一時衰退しますが、鎌倉時代以後大友氏の庇護により再建されます。現在の本堂は、南北朝期の応安 2（1369）年に建てられたものが度重なる修理を経て残されている建築物です。単層桧皮葺き、方三間の宝形造りで、堂内中央に四天柱を立て、方一間の内陣を構えており、現存する中世の貴重な建築物です。



神角寺本堂

菅尾磨崖仏（重要文化財）・菅尾石仏（史跡）

三重町浅瀬（宇対瀬）　昭和9年1月22日史跡指定
昭和39年5月26日重文指定

向って左から千手観音・薬師如来・阿弥陀如来・十一面観音・毘沙門天の 5 体の磨崖仏です。平安時代後期に熊野権現を勧請して作られたといわれ、その造形は力強く優美であるため、国の史跡指定だけでなく彫刻として重要文化財指定も受けています。



菅尾磨崖仏

木造金剛力士立像（重要文化財）

朝地町鳥田（鳥屋）　昭和57年6月5日指定

神角寺山門に阿形・吽形の一対で安置されており、像高は約 2.5m の桧・樟材の寄木造です。両像とも憤怒相で、動きの少ない静的な体勢でありながら太作りの上半身により特異な迫力に富む作品です。昭和 58 年の保存修理の際に、胎内から発見された銘札に 13 世紀に活躍した地域の有力者や関係者 46 名と推定される交名があったことから、鎌倉時代後半の制作と推定されます。



阿形　　吽形

虹澗橋（重要文化財）

三重町菅生　平成11年12月1日指定

臼杵市境の三重川に架橋されています。近世臼杵藩領三重と野津を隔てる柳井瀬の谷を渡るため、文政 7（1824）年三重と臼杵の豪商三氏より架設されたことが野津側にある碑文に記されています。虹澗は「澗を渡る虹」の意で、その名のとおり優美で壮大な石橋です。橋長約 31m、径間は約 25m で、江戸期のアーチ式石橋としては県下最大です。



虹澗橋

尾崎の石風呂（重要有形民俗文化財）

緒方町小宛　昭和43年5月31日指定

緒方町に多く分布する石風呂の一つで、塩石とも呼ばれます。寛永年間（17 世紀前半）の掘削とも伝えられる横穴二段式の石風呂です。凝灰岩の岩壁に高さ 2m、横幅 80cm の入口が掘られ、上段の浴室は高さ 1.5m、面積約 4㎡です。下段の火室で薪を燃やし、熱くなった床石に「石菖」という薬草を敷き、水をかけ蒸気をたて、入口にムシロを下げて入浴します。石風呂入口右上には薬師如来が安置されており、医療的な目的と推定されます。



尾崎の石風呂

御嶽神楽（重要無形民俗文化財）

清川町　平成19年3月7日指定

宝徳元（1449）年、御嶽社勧請の際に創始されたと伝わる神楽です。江戸後期に御嶽社宮司の加藤筑後守長古によりほぼ今の形の神楽が完成され、大野系岩戸神楽の祖型となったと考えられています。神話を主題にした演目を中心に、33 番の演目数を現在も受け継ぐ大分県を代表する神楽です。



御嶽神楽

緒方宮迫東石仏（史跡）

緒方町久土知　昭和9年1月22日指定

平安末期の作と推定され、大神一族の緒方惟栄による造顕と伝えられています。東石仏は西石仏より 200m 北東に所在し、中尊は大日如来、右に不動明王、左に毘沙門天を配し、さらに両脇に金剛力士像が彫り込まれています。江戸時代には薬師如来として信仰されており、また、地元では牛の守り神として牛をひいて参拝していたといわれます。



宮迫東石仏

緒方宮迫西石仏（史跡）

緒方町久土知　昭和9年1月22日指定

東石仏と同じく、平安末期の大神一族の緒方惟栄による造顕と伝えられています。西石仏は東石仏より 200m 南西方向に所在します。向って右から阿弥陀如来・釈迦如来・薬師如来像を配置しており、阿弥陀に来世を託し、釈迦に過去を顧み、薬師に現世を頼む三尊仏形式です。鮮やかな彩色が見られます。



宮迫西石仏

犬飼石仏（史跡）

犬飼町田原（渡無瀬）昭和9年1月22日指定

渡無瀬区に所在し、鎌倉時代の作と推定される磨崖仏です。溶結凝灰岩の岩窟堂内に像高 3.7m の不動明王坐像と 1.7m の矜羯羅童子・制吒迦童子の脇侍 2 体を彫り出しています。右手に三鈷剣、左手には羂索を持って結跏趺坐し、部分的に赤い彩色が残ります。厳しさのなかにどこか柔和な表情があり、親しみやすい不動明王です。



犬飼石仏

岩戸遺跡（史跡）

清川町臼尾　昭和56年3月31日指定

岩戸地区の台地上にあり、九州でも代表的な旧石器時代遺跡です。昭和 42（1967）年の東北大学考古学研究室により本格的な学術発掘調査が行われ、以後別府大学や清川村教育委員会による調査も行われています。旧石器時代は石を加工して槍先など様々な道具を作り出していた時代であり、この遺跡からも 2 万年以上前の地層からナイフ形石器や尖頭器など数多くの石器が出土しました。特にこけし形石偶は祈願・呪術などの用途が推定されることから、当時の精神世界を知る貴重な遺物として注目されています。



こけし形石偶



尖頭器

岡藩主中川家墓所（史跡）

緒方町寺原（小富士山）平成9年9月2日指定

小富士山頂の南西 250m にある近世岡藩八代藩主中川久貞公の墓所で、「御霊廟」と呼ばれます。久貞公は、由学館・経武館などを開設し学問に力を入れ、また、悪化した藩財政の再建に取り組んだことで知られています。寛政 2（1790）年に 67 歳で没し、遺命によりこの地に埋葬されました。儒教を信奉したため儒式墓となっています。隣接してその奥方・お久の方の落飾碑があります。



中川久貞公墓

カモシカ（特別天然記念物）

祖母・傾山一帯（三重町・清川町・緒方町）

昭和30年2月15日指定

日本の本州・四国・九州に生息するニホンカモシカは日本固有種で、偶蹄目ウシ科のヤギに近縁の種です。体長は 1.2m 程で、黒毛・褐毛・白毛の体毛があり、その混合比により淡色型や暗色型に分かれ、また季節によっても体色が変化します。九州では大分県祖母・傾山一帯のほか熊本・宮崎両県に渡る九州山地を生息範囲としています。



ニホンカモシカ

緒方川と緒方盆地の農村景観（重要文化的景観）

緒方町　令和5年3月20日選定

豊後大野市の西部に位置する緒方盆地は、阿蘇火山由来の溶結凝灰岩が覆う丘陵地帯に位置します。盆地中央を蛇行する緒方川の侵食により形成された河岸段丘は、丘陵地帯には稀有なまとまった平地ですが、川面と大きな高低差があります。そのため盆地内では、古くから灌漑用水を得るための努力が行われており、平安末期には緒方三郎惟栄により低位段丘を潤す井路が、近世には岡藩により中位段丘を潤す井路が整備され、藩屈指の稲作地帯となりました。近代には、丘陵上に長距離水路が整備され、高位段丘と丘陵部に棚田が開かれます。このように、水路開削により稲作地帯として発展を遂げてきた農村の変遷を伝える貴重な景観となっています。

河川、水田、井路、集落、山林が連なる土地利用の維持、また、井路網や石橋、磨崖仏や石風呂等、人々が時代ごとの技術を用いて溶結凝灰岩を開発に生かし、生活と結びついた文化や信仰を育んできたことを伝える要素が至るところに残されています。



緒方盆地の景観(原尻の滝周辺)

（2）国登録文化財

旧緒方村役場（登録有形文化財）

緒方町馬場　平成9年5月7日登録

昭和７（1932）年４月１日に緒方村と南緒方村が合併したその記念として、同年７月に緒方村役場庁舎として建築されました。正面八間、側面六間半の木造二階建で、半切妻屋根・洋風瓦葺。玄関天井と二階議場天井部分には菊花型の石膏レリーフがあしらわれ、入口にはスクラッチタイルが使われるなど西洋風の雰囲気のある建築物です。昭和 33（1958）年に緒方町中央公民館、昭和40（1965）年から豊西准看護学院としても使用されています。令和4（2022）年の保存修理により建築当初に近い姿に復元されました。



復元された旧緒方村役場

多田家住宅（御成屋敷（おなりやしき）・御成門（おなりもん）・主屋・蔵）（登録有形文化財）

三重町市場　平成14年6月25日登録

現在多田家所有の旧臼杵藩市場組大庄屋の居宅で、元治元（1864）年に藩主を迎えるために建てられたといわれます。明治時代には、大野郡役所庁舎が建設されるまで、郡役所としても用いられました。平入りの式台玄関から次の間、座敷を連続させ、三方に縁を巡らせています。



多田家住宅(御成門ほか)

旧長田医院（登録有形文化財）

三重町市場　平成14年6月25日登録

昭和２（1927）年に建築された木造２階建ての病院建築。街路側は、中央に玄関ポーチを備える洋風で、背面側はほぼ和風の意匠をもっています。１階には手術室・診察室・控室など病院機能を備え、２階には床棚を備える広間と４畳半の和室２部屋を配置します。現在は、内部を改装して飲食店として活用されています。